

平成 29 年度 地域活性化総合特別区域評価書

作成主体の名称：静岡県

1 地域活性化総合特別区域の名称

ふじのくに先端医療総合特区

2 総合特区計画の状況

①総合特区計画の概要

静岡がんセンターが実施している「マルチオミクス解析を用いたゲノム医療の早期実現と新技術開発に関する臨床研究（プロジェクト HOPE）」により、医療現場の基盤整備やゲノム臨床情報を基にした診断薬等の開発に向けた取組を推進するとともに、同センターがこれまでに構築した基盤技術や治験体制を活用し、がん診断装置・診断薬等の早期の製品化を実現する。

また、産学官金が連携して推進しているファルマバレープロジェクトにより構築した「ものづくりプラットフォーム」を活用し、地域企業の医療健康産業への参入や研究開発、製品化・事業化を推進する。特に、静岡がんセンター隣接地に整備したプロジェクトの新拠点、静岡県医療健康産業研究開発センター（ファルマバレーセンター）を中心に、オープンイノベーション機能を充実させることで、世界市場を視野に入れた研究開発を推進し、革新的ながん診断装置・診断薬等を開発するとともに、既存企業の規模拡大及び国内外からの企業立地の推進を図る。

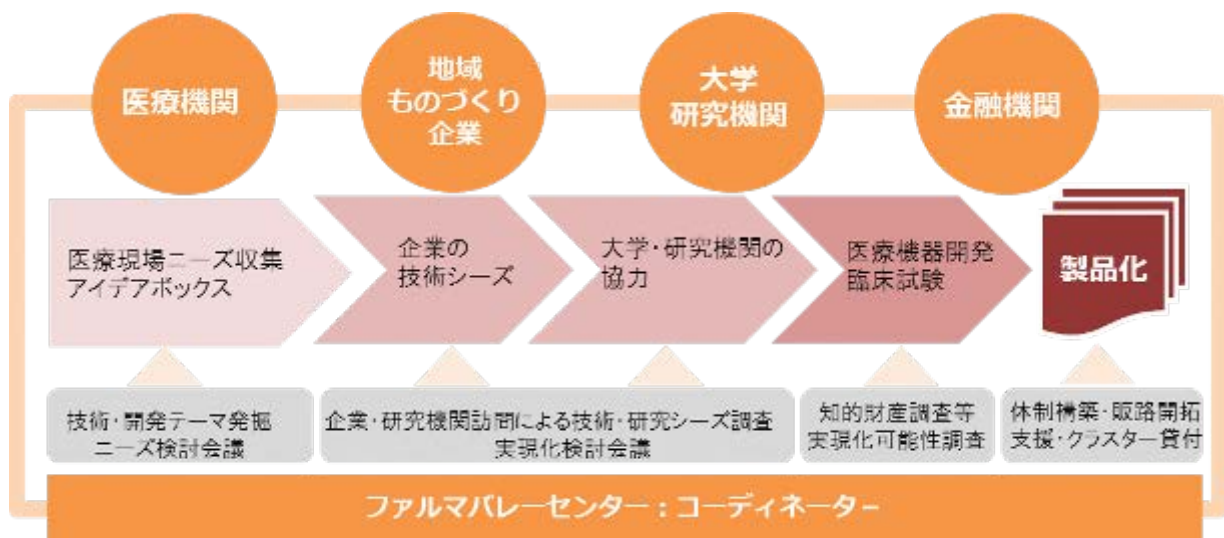


(プロジェクト HOPE)

静岡がんセンターでは、平成 26 年 1 月から日本初の「近未来のプレジジョン・メディシンのシミュレーション」を目的とした先進的事業「プロジェクト HOPE (High-tech Omics-based Patient Evaluation)」を進めている。平成 30 年 2 月 28 日現在、登録は 4,663 症例に達し、国内のがんゲノム研究としては類の無いビッグデータとなった。変異データの解析結果から見出された成果に関する学会発表、外国誌論文掲載、新聞等掲載とともに、特許出願等の事業化に向けた取組が進んでいる。今後、得られた成果をもとに、診断薬や創薬、腫瘍マーカー開発のほか、プレジジョン・メディシンの実現に向けた次世代がん医療支援システムの創出等が期待される。

(静岡県医療健康産業研究開発センター (ファルマバレーセンター))

国内トップクラスのがん診療実績を持つ静岡がんセンター隣接地に平成 28 年 9 月オープン。ファルマバレープロジェクトの中核支援機関である(公財)静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターの産業化コーディネーター等が製品化に向けた伴走支援、企業間連携の促進、知財・薬事コンサルタント等と協力した企業活動支援を行うとともに、テルモ(株)MEセンターやサンスター(株)等の入居企業 12 社が静岡がんセンターとの密な連携を保ちながら同一敷地内で研究開発を行う。また、地域企業の製品販売支援、産学官金の連携強化、会議室・常設展示場の活用や認定看護師教育課程の開講、静岡がんセンター医学図書館分室の設置等、異業種交流や製品開発の加速化に向けた様々な仕組みが用意されている。



ファルマバレーセンターのものづくりプラットフォーム

②総合特区計画の目指す目標

革新的ながん診断装置・診断薬の研究開発の拠点化を進め、国際競争力を有する製品を迅速に世界へ提供することにより、がん医療を飛躍的に発展させるとともに、製品を支える医療機器や部品・部材を提供する地域企業による産業クラスターの形成により、地域企業の活性化と雇用創出を図ることを目標とする。

③総合特区の指定時期及び総合特区計画の認定時期

平成 23 年 12 月 22 日 指定

平成 24 年 3 月 9 日 認定（平成 28 年 6 月 17 日最終変更）

④前年度の評価結果

ライフ・イノベーション分野 3. 7 点

- ・全体として着実に事業が進捗しており、今後の成果達成の蓋然性も高いものと評価できる。
- ・拠点整備の充実が図られており、支援の多面的な展開を通じて、県内外のさまざまなステークホルダーの協働体制、基礎データが構築され、成果が出始めている。特に、静岡がんセンター及びファルマバレーセンターを中心に、地元中小企業や他産業に従事していた企業の参入を促すシステムが構築された点は評価できる。
- ・今後は、実用化、商品化への支援が必要である。臨床研究等で静岡県東部地域以外の医療機関、経済界の協力をあおぐなど全県的な取組をより推進していくことが、地域の経済基盤の確立のために重要だと思われる。また、地域独自の支援の継続と企業の自立、規制緩和に何を求めるかの「見える化」が求められる。

⑤本年度の評価に際して考慮すべき事項 該当なし

3 目標に向けた取組の進捗に関する評価（別紙 1）

①評価指標

評価指標（1）：がん診断装置・診断薬の開発 [進捗度 100%]

数値目標（1）：平成 28 年度から平成 32 年度までの累計 4 件

[平成 29 年度目標値 0 件、平成 29 年度実績値 1 件、進捗度 100%]

評価指標（2）：その他医療関連製品の開発 [進捗度 120%]

数値目標（2）：平成 28 年度から平成 32 年度までの累計 50 件

[平成 29 年度目標値 10 件、平成 29 年度実績値 12 件、進捗度 120%]

評価指標（3）：医療機器生産金額（県内）[進捗度 67%]

数値目標（3）：3,739 億円（平成 25 年薬事工業生産動態統計）

→7,500 億円（平成 32 年薬事工業生産動態統計）《代替指標による評価》

代替指標（3）：薬事工業生産動態統計（月報）の 1 月～12 月の各月の和

3,739 億円（平成 25 年薬事工業生産動態統計）

→7,500 億円（平成 32 年薬事工業生産動態統計）

②寄与度の考え方 該当なし

③総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターによる臨床現場のニーズ収集から製品化までのきめ細かい支援や、大企業等との共同研究の推進により、様々な医療関連製品が開発されている中で、提案した規制の特例措置により地域への迅速な資格者の輩出が可能となったことや、ファルマバレーセンターのコーディネーターによる参入支援により、地域企業による医療健康産業への参入が加速し、あわせて、地域や国が実施する財政支援や金融支援を活用することで、医療関連製品の開発がさらに促進されていくと見込まれる。

さらに、研究から製造・販売まで必要となる機能を戦略的に集約したファルマバレー新拠点施設の機能を最大限に発揮させるとともに、静岡がんセンターが有する高度で先進的な基盤技術を活用することで、世界展開を視野に入れた革新的ながん診断装置・診断薬や医療関連製品の開発を促進していく。

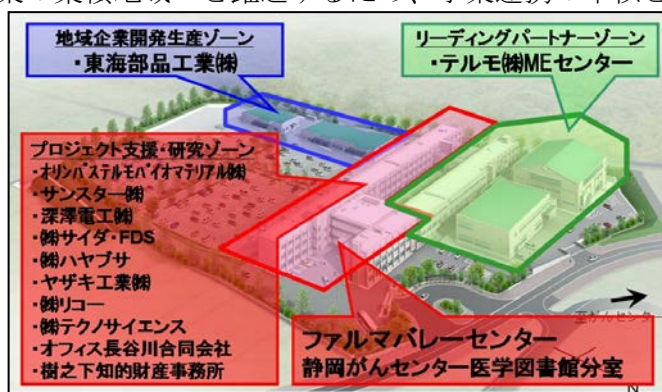
加えて、中核支援機関であるファルマバレーセンターの新法人化により、プロジェクトの推進体制が一層強化されることで、医療健康産業の集積や新たな製品開発を加速化し、地域企業の活性化と雇用創出を通じて、地域の経済基盤の確立に繋げていく。

○先進的がんゲノム研究の推進

静岡がんセンターでは、平成 26 年 1 月から日本初の「近未来のプレジジョン・メディシンのシミュレーション」を目的とした先進的事業「プロジェクト HOPE（High-tech Omics-based Patient Evaluation）」を進めている。静岡がんセンターの全手術症例のうち、試料入手が可能な年間約 1,000 症例のゲノム解析（高度な遺伝子解析基盤技術）を実施し、平成 30 年 2 月 28 日現在、登録は 4,663 症例に達し、国内のがんゲノム研究としては類の無いビッグデータとなった。また、2,652 症例の変異データ解析の結果、その 64% の症例にがん化に関連する遺伝子に機能変化を及ぼす変異が認められ、17% の症例に分子標的薬が使用できる遺伝子変異を見出した。学会発表（国内 65 演題、海外 6 演題）、外国誌論文掲載（21 報）、日本語誌論文掲載（2 報）、新聞等掲載（27 件）を行い、特許出願等の成果の事業化に向けた取組が進んでいる。今後、得られた成果をもとに、診断薬領域においては、共同研究先の企業と事業化へと展開することで合意している。創薬においても、製薬企業との連携を積極的に進め、革新的な創薬及び腫瘍マーカー開発のほか、プレジジョン・メディシンの実現に向けた次世代がん医療支援システムの創出等が期待される。

○オープンイノベーションを促進する研究開発拠点の整備

静岡県は、世界レベルの医療健康産業の集積地域へと躍進するため、事業連携の中核となる新しい戦略的拠点施設として、静岡県医療健康産業研究開発センター（ファルマバレーセンター）を静岡がんセンター隣接地に平成 28 年 9 月、全面開所した。リーディングパートナー企業として地域企業等を積極的に支援するテルモ(株)MEセンターや、医療健康分野への新規参入を果たし、医療機器の開発・製造の強化を目指す東海部品工業(株)が入居して稼働を始めているほか、オリンパステルモバイオマテリアル(株)、サンスター(株)、(株)リコー等の大手企業のほか、地元企業である深澤電工(株)、(株)サイダ・FDS、ヤザキ工業(株)、(株)ハヤブサ、テクノサイエンス(株)、そして薬事コンサルタント（オフィス長谷川合同会社）、知財コンサルタント（樹之下知的財産事務所）が入居し、様々な企業等の連携や交流、支援により、国際競争力のある研究開発と製品化を促進し、世界レベルの医療健康産業の拠点化を目指していく。



さらに、センターにはプロジェクトの中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターが入居し、7名の地域連携コーディネーターとラボマネージャーを中心に、入居企業や地域企業、医療従事者等の異業種間の連携、交流を促進している。

既に、静岡がんセンターと医療分野への新規参入となる入居企業が連携し、開発した医療機器が製品化され、静岡がんセンターを始めとした医療現場で使用されている。これに留まらず、入居企業同士、入居企業と大手企業や大学との連携による新たな製品開発の取組、大手企業が所有する分析機器等の供用使用等の取組が具体化している。また、病院立として全国初となる認定看護師教育課程を開講している静岡がんセンターは、講義の場をセンターに移すとともに、施設内に医学図書館の分館を設置した。これにより入居企業は看護師との交流・接点が増えるとともに、医療に関する専門的な情報にアクセスすることが可能となった。こうしたオープンイノベーション機能の充実により、これまで以上の様々な医療関連製品の事業化・製品化が期待される。



センター入居企業と静岡がんセンターの連携による医療機器開発
（(株)ハヤブサの胸腹腔ドレーン固定具「ドレーンサポート」）



地域企業と医療従事者の交流
（静岡がんセンター内での製品展示会）

○医療健康分野への新規参入の促進

中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターは、薬機法に則った製品開発、製造・品質管理、販売戦略等に対応可能な地域企業をより多く創出するとともに、同法に精通する企業人材を養成し地域企業の底力を上げるため、地域企業の医療健康産業参入を支援し、医療機器製造業登録や医療機器製造販売業許可取得を促進している。

平成 29 年度は、ファルマバレーセンターのコーディネーター等の支援を受けて、医療機器製造業登録が 2 社、第 2 種、第 3 種の医療機器製造販売業で計 5 社が許可を取得した。さらに、それらの企業の中から一般医療機器が販売されるなど具体的な成果が現れている。

これまで、ファルマバレーセンターの支援により、医療機器製造業登録や医療機器製造販売業許可を取得した企業は 46（平成 14 年以降の累計）にもものぼり、様々な製品を上市しており、本県医療機器等の生産額の増加に大きく寄与している。

○規制緩和制度の活用による医療健康産業人材育成

当特区から提案した規制の特例措置により、沼津工業高等専門学校が実施する富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）が全国で初めて医療機器責任者講習として認定を受け、地域へ迅速に資格者を輩出している。これまでに 32 名が認定講習を受講し、責任者資格要件を取得している。

また、医療機器分野への参入を目指しセンターへ入居した企業が F-met により取得した責任者資格を活かして医療機器製造業登録を行うなど、具体的効果も現れている。同校は平成 26 年度から専攻科を改編し、新たに「医療福祉機器開発工学コース」を開設しており、F-met とあわせて、今後も医療機器等を開発する優秀な人材を継続的に地域に輩出することが見込まれる。

○広域的な連携の推進

ファルマバレープロジェクトは県東部地域を中心としつつ、区域内に留まらない広域的な展開を進めており、県全域及び全国における病院、企業等の連携・協力を得ながらプロジェクトを推進している。

臨床研究分野では、医療技術の進歩に寄与する先進医療の開発促進、エビデンスの確立等を図るため、県内外の医療機関に所属する研究者が主体となり、計画・実施する臨床研究に対して、（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターが運営事業局となり、がん領域における当該研究を支援している。当該臨床研究試験ネットワークは、県東部地域の医療機関に留まらず、県内外の多数の医療機関の研究者が参画しており、平成 19～29 年度の累計で 21 件（平成 29 年度は 1 件）の研究の支援を行っている。これまでに世界レベルの研究成果も生まれており、広域的な臨床研究の推進により、今後も最先端のがん診断・治療法等の実用化が期待される。

また、県内全域における地域企業間のネットワーク拡充を図り、医療健康産業分野の裾野を広げることを目的として、ファルマバレーセンターが、医療健康分野に関わる県内企業を訪問の上、これら 400 社以上の事業内容や技術等を紹介する冊子を毎年度作成している。各医療機器等メーカーは、医療機器等の試作をはじめ部品・部材調達の多様化や製造

の外部委託を図る上での参考として当該冊子を活用しており、県全域を対象とした企業間連携の一助となっている。

○世界展開の支援

プロジェクトの有するネットワーク等を活用して、世界市場を視野に入れた研究開発を推進し、革新的ながん診断装置・診断薬等の開発を支援するとともに、地域企業の販路拡大に向けた海外展開を支援している。

静岡がんセンターと早稲田大学等が共同で開発した皮膚メラノーマ診断支援装置の実用化に向けて、スウェーデンのルンド大学と連携し、症例数の多い北欧地区において臨床評価を行った。引き続きデータ解析等の製品化に向けた取組を継続しており、革新的な診断装置等の国際展開に向けた動きが着実に進んでいる。

マルチオミクス検査の前処理装置は、静岡がんセンター及び（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターの支援を受けて、平成29年3月に開催された「静岡がん会議」において、世界6地域（中国・台湾・ベトナム・ロシア・フィリピン・モンゴル）より招聘した医療従事者等へ贈呈されており、アジア展開を視野に入れた海外展開が行われている。

また、ファルマバレーセンターは、地域企業の海外販路開拓支援として、ドイツで開催された医療分野における世界最大規模の展示会「MEDICA2017」へのインフルエンザ等の迅速検査キットの国内主要メーカーの出展をサポートした。展示会での商談の確度を高めるため、ターゲットの事前スクリーニングを行うと共に、現地のJETRO事務所や海外コンサルティングと連携して情報収集を支援し、海外ディストリビューターの新規獲得に繋げるなど、大きな成果を上げている。

今後も新たなエリアへの出展や、新製品の国際機関の認証取得を視野に事業を企画・推進し、地域企業の海外展開に向けた取組を支援していく。



インフルエンザ等の迅速検査キットメーカーである㈱タウンズのMEDICA2017への出展（独・デュッセルドルフ）

○中核支援機関の機能強化

静岡県は、（公財）静岡県産業振興財団の1部門であるファルマバレーセンターを、産業振興財団から分離独立させ、専門性の高い事業を機動的に実施できる新法人「（一財）ふじのくに医療城下町推進機構」を平成29年8月に設立した。平成30年4月より新法人がプロジェクトの中核支援機関としての事業を開始する予定である。

新体制の下、事業責任の明確化、事業効率・効果の向上を図り、既存事業の高度化によるプロジェクトのステップアップを目指すとともに、新たな法人役員による知のネットワークを活用し、他地域のクラスター等との連携による全県的・広域的な展開を通じて、プロジェクトのさらなる拡大を図る。

④目標達成に向けた実施スケジュール（別紙１－２）

研究開発拠点の機能強化については、ファルマバレー新拠点施設の基本計画を平成 25 年度に策定、平成 26 年度から実施設計及び工事に着手し、平成 28 年 9 月に静岡県医療健康産業研究開発センター（ファルマバレーセンター）が全面開所した。開所後も、静岡がんセンターが開講する認定看護師教育課程の移設や医学図書館分館の設置等、オープンイノベーション機能の強化が図られている。今後は、当該機能を最大限に発揮し、企業と医療従事者との交流機会の創設や企業間連携の促進等に取り組み、これまで以上に様々な医療関連製品の事業化・製品化を目指していく。

また、静岡県は、中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターを、より専門性の高い事業を機動的に実施できる新法人「（一財）ふじのくに医療城下町推進機構」として産業振興財団から分離独立させ、平成 30 年 4 月より事業を開始する予定である。新法人の役員等による知のネットワークを活用し、他地域のクラスター等との連携による全県的・広域的な展開を通じて、プロジェクトのさらなる拡大を図る。

がん診断装置・診断薬の開発については、静岡がんセンターが進めている「プロジェクト HOPE」で得られる 4,000 症例以上のゲノム解析情報を活用して独創的な開発基盤を構築し、診断薬や創薬、腫瘍マーカー開発のほか、プレシジョン・メディシンの実現に向けた次世代がん医療支援システムの創出等に取り組む。

医療関連製品の開発については、静岡県医療健康産業研究開発センター（ファルマバレーセンター）を中心に、当地域で構築した「ものづくりプラットフォーム」を充実・強化し、中核支援機関である（一財）ふじのくに医療城下町推進機構による静岡がんセンターをはじめとした臨床現場のニーズ収集から製品化、販路開拓までのきめ細かい支援や、総合特区の支援を効果的に活用しながら事業展開を図る。

4 規制の特例措置を活用した事業等の実績及び自己評価（別紙 2）

①特定地域活性化事業 該当なし

- ・本特区において当該特例措置の活用の対象となる事業がないため

②一般地域活性化事業

②－1 国内品質業務運営責任者の資格要件について（薬機法）

ア 事業の概要

医療機器分野への新規参入を促すため、製造販売業に係る国内品質業務運営責任者の資格要件である 3 年以上の業務従事経験について、低リスクの医療機器を扱う場合（第二種及び第三種並びに体外診断用医薬品）には、薬機法に規定する従事経験に限らず、IS09001 又は IS013485 に係る品質管理業務の従事経験を認める。（平成 27 年 9 月に厚生労働省による見直しにより現行制度での対応が可能となった。）

イ 評価対象年度における規制の活用状況と目標達成への寄与

医療機器分野への参入障壁の 1 つであった従事経験の要件が緩和されたことも大きく影響し、地域企業による他業種からの多角化、二次創業による参入が加速化している。

平成 29 年度は、第 2 種及び第 3 種の医療機器製造販売業で 5 社が、（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターのコーディネーター等の支援を受けて許可を取得した。さらに、それらの企業の中から一般医療機器が販売されるなど具体的な成果が現れており、当特区の数値目標の 1 つである「その他医療関連製品の開発」の達成に直接寄与するとともに、「医療機器生産金額」の増加にも繋がるなど、好循環が生まれている。

・静岡県における医療機器製造販売業の新規許可取得業者数（制度見直し以降）

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	累計
第 2 種製造販売業	-	2 社	2 社	4 社
第 3 種製造販売業	-	2 社	3 社	5 社
うちファルマバレーセンター支援	-	3 社	5 社	8 社

②-2 責任者資格要件の緩和（薬機法）

ア 事業の概要

医療機器分野への新規参入を促すため、本特区からの提案により、医療機器製造販売業に係る総括製造販売責任者及び医療機器製造業に係る医療機器責任技術者の資格要件が全国的に緩和された。

具体的には、各資格の要件となる 3 年以上の業務従事経験に替わる講習として、沼津工業高等専門学校が実施する富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）が、全国で初めて認定講習として知事の認定を受け、地域へ迅速に資格者を輩出している。

イ 評価対象年度における規制の活用状況と目標達成への寄与

これまでに 32 名が認定講習を受講（平成 29 年度は 3 名）し、責任者資格要件を取得している。

また、医療機器分野への参入を目指し静岡県医療健康産業研究開発センター（ファルマバレーセンター）へ入居した企業が F-met により取得した責任者資格を活かして医療機器製造業登録を行うなど、具体的な効果も現れており、本件措置の効果は大きく、今後も活用が見込まれている。

・静岡県における医療機器製造業の新規許可取得業者数

	H28 年度	H29 年度	累計
製造業	4 社	4 社	8 社
うちファルマバレーセンター支援	4 社	2 社	6 社

③規制の特例措置の提案 該当なし

・平成 29 年度は具体的な提案には至らなかったが、引き続き、プロジェクトの参画機関や地域企業等との意見交換を通じて、新規参入や製品開発、世界展開を含めた販路拡大等における各種障壁を洗い出し、必要性を精査の上、具体的な提案に繋げていきたい。

5 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（別紙3）

①財政支援：評価対象年度における事業件数3件

<調整費を活用した事業>

- ・一般地域活性化事業（医療機器等開発・参入支援事業（課題解決型医療機器等開発支援事業（医工連携事業化推進事業）））

ア 事業の概要

（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター及び静岡がんセンターが事業管理機関となり、平成24年度から平成27年度までに調整費を活用して、6つのテーマについて約9.5億円の支援を受け、国際競争力のある新製品の創出を目指し、医療現場のニーズに応える医療機器の開発・事業化を推進してきた。

医療分野に参入した地域企業が開発した人工関節インプラントが既に上市されているほか、補助事業終了後も継続して製品化・事業化に取り組んでいる。

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

補助事業終了後も（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターの産業化コーディネーター及び静岡がんセンターが、製品化・事業化を進める地域企業を継続して支援してきた。これらの支援を通じて平成29年度は2件の新製品が上市されるなど、当特区の数値目標の1つである「その他医療関連製品の開発」の達成に直接寄与している。

ニオイセンサーを活用した病臭測定装置は、地域企業と静岡がんセンターが連携して小型化・軽量化を進め、平成30年3月に製品化、発売された。

マルチオミクス検査の標準化を可能にする前処理装置は、静岡がんセンターと企業が連携して試作機開発や評価に取り組み、平成28年3月の製品化、発売された。さらに、平成29年度には、新たに大容量サンプルからの核酸分離が可能な装置が発売された。

ウ 将来の自立に向けた考え方

補助事業終了後も（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターの産業化コーディネーター及び静岡がんセンターが、製品化・事業化を進める地域企業を継続して支援してきた。

また、本事業により製品化されたマルチオミクス検査の前処理装置は、静岡がんセンター及びファルマバレーセンターの支援を受けて、平成29年3月に開催された「静岡がん会議」において、世界6地域（中国・台湾・ベトナム・ロシア・フィリピン・モンゴル）より招聘した医療従事者等へ贈呈されており、アジア展開を視野に入れた海外展開が行われている。

このように補助事業終了後も、製品化・事業化に向けた支援とあわせて、海外展開を含めた販路拡大に向けた支援が、地域により独自に継続して展開されている。



マルチオミクス検査の前処理装置（QuickGeneMini）の静岡がん会議での海外医療従事者等への贈呈式（平成29年3月）

<既存の補助制度等による対応が可能となった事業>

①-1 次世代診断技術開発推進事業（地域イノベーション戦略支援プログラム（国際競争力強化地域））（平成29年度要望結果：全てについて現行制度で対応）

ア 事業の概要

プロジェクトの中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターに「創薬チーム」及び「医療・介護ロボット・機器チーム」の地域連携コーディネーター7名を配置し、構築した「知のネットワーク」を活用して地域内外の大学、研究機関、企業等と連携を図りながら、医療・介護現場のニーズ・シーズを創薬研究や医療機器等の開発、試作、製品化に繋げ、医療健康産業クラスターの形成を推進している。本事業は5年間の継続事業であり、地域連携コーディネーターを中心に、複数のプロジェクトを推進していることから、計画的かつ着実に事業をするためにも、財政支援の活用により地域が必要とする資金について、確実に獲得することが必要である。

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

地域連携コーディネーターを中心とした中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターの支援により、創薬開発研究での共同研究契約の締結、医看工連携による医療現場ニーズの事業化・製品化が促進されている。

また、静岡県医療健康産業研究開発センター（ファルマバレーセンター）開所後は、入居企業に対する個別支援を積極的に進め、入居企業と大学医学部との橋渡し（共同研究契約の締結）や、医療機関との共同研究、入居企業間連携による共同開発、コア技術の応用による薬剤製造技術の開発、開発製品の国際展開及び入居企業間取引の成立等、着実な成果を上げている。

さらに、地域企業の医療健康産業への新規参入が促進され、平成29年度は、地域連携コーディネーターの支援を受けて、地域企業2社が薬機法の医療機器製造業登録を行ったほか、5社が新たに製造販売業許可を取得するなど、医療分野への新規参入に向けた支援も成果を上げている。それらの企業の中から一般医療機器が販売されるなど具体的な成果も現れており、当特区の数値目標の1つである「その他医療関連製品の開発」の達成に直接寄与するとともに、「医療機器生産金額」の増加にも繋がる好循環が生まれている。

ウ 将来の自立に向けた考え方

当該補助事業は平成29年度をもって終了したが、静岡県は、平成30年度も地域資金により中核支援機関である（一財）ふじのくに医療城下町推進機構に創薬及び医療・介護ロボット・機器のコーディネーター4名を独自に配置し、製品化に向けた伴走支援、企業間連携の促進、知財・薬事コンサルタント等と協力した企業活動支援を継続して行っている。次年度以降も地域の独自の取組として活動を継続して実施していく。

①-2 医療機器等開発・参入支援事業（戦略的基盤技術高度化・連携支援事業）（平成29年度要望結果：一部について現行制度で対応）

ア 事業の概要

(公財) 静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターが事業管理者となり、地域企業が有する高度なものづくり基盤技術を活用した医療機器開発の取組を支援している。平成 29 年度は、2つの地域企業の研究開発テーマについて、国の支援を受け、事業を推進している。本事業は3年間の継続事業であることから、計画的かつ着実に事業を推進するためにも、財政支援の活用により地域が必要とする資金について、確実に獲得することが必要である。

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

平成 29 年度は、継続事業として「微小血管吻合用ステントの開発」及び「骨端用プレートの高品質・低コスト成形加工技術の開発」の2テーマについて国の支援を受け、必要な設備導入等を行った。事業化に向けて、引き続き研究開発を進めており、今後、当特区の数値目標である「その他医療関連製品の開発」の達成及び「医療機器生産金額」の増加に繋がることが期待される。

ウ 将来の自立に向けた考え方

「微小血管吻合用ステントの開発」については、平成 29 年度をもって当該補助事業が終了したが、平成 30 年度以降も（一財）ふじのくに医療城下町推進機構のコーディネーターが中心となり、企業の事業化に向けた取組を継続して支援していく。

①-3 医療機器等開発・参入支援事業（地域中核企業創出・支援事業）（平成29年度要望結果：一部について現行制度で対応）

ア 事業の概要

プロジェクトの中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターは、当センターの有するネットワーク等を活用し、地域企業の世界展開を支援している。平成 29 年度は、本事業を活用し、地域の診断薬企業である株式会社タウンズの海外販路拡大支援のため、世界最大規模の医療分野における展示・商談会である MEDICA2017（ドイツ・デュッセルドルフ）への出展を支援した。

地域の中小企業による世界展開に向けた海外展示会への出展については、資金やネットワークの面で地域独自の取組では限界があるため、国の支援を受けることが必要である。

イ 評価対象年度における財政支援の活用状況と目標達成への寄与

平成 29 年度は、ファルマバレーセンターが本事業の事業管理者となり、展示会での商談の確度を高めるため、ターゲットの事前スクリーニングを行うと共に、現地の JETRO 事務所や海外コンサルティングと連携して情報収集を支援した。結果として、海外ディストリビューターの新規獲得に繋げるなど、大きな成果を上げている。

今回の診断薬企業の海外販路拡大は、数値目標への直接的な影響はないものの、本特区が掲げる最終的な目標である医療健康産業クラスターの形成による地域企業の活性化と雇用創出には大きく寄与している。

また、今回のファルマバレーセンターによる地域企業の世界展開支援の活動は、新聞にも大きく取り上げられており、本件を成功事例として、他の地域企業におい

ても海外展示会への出展等の検討がなされるなど、地域企業の世界展開に向けた機運が大きく醸成されており、好循環が生まれている。

ウ 将来の自立に向けた考え方

中核支援機関である（一財）ふじのくに医療城下町推進機構が、本事業を通じてえられたノウハウや新たな法人役員による知のネットワークなどのリソースを最大限に活用し、引き続き地域企業の世界展開を支援していく。

また、プロジェクトでは、医療関連産業の海外進出を視野に、海外のクラスターや研究機関との連携も進めており、平成 29 年度は台湾最大かつ世界的研究機関である台湾工業技術研究院（ITRI）との連携により、セミナーや地域企業との意見交換会を行った。平成 30 年度は、米国シリコンバレーを拠点に日米間の医療機器分野での交流を推進する団体である US-Japan Medtech Frontiers と本県が連携し、医療機器に関する国際ビジネスフォーラム「2018 日米医療機器イノベーションフォーラム 静岡」の開催を予定している。このように地域企業の世界展開に向けて、地域独自の取組を継続して実施していく。

②税制支援：評価対象年度における適用件数 0 件

- ・企業からの資金調達ニーズや個人からの出資の申出がなかったため

③金融支援（利子補給金）：評価対象年度における新規契約件数 4 件

③-1 医療機器等開発・参入支援事業（地域活性化総合特区支援利子補給金）

ア 事業の概要

医薬品・医療機器や部品・部材を提供する地域企業による産業クラスターの形成により、地域企業の活性化と雇用創出を図るため、総合特区域内で、医療機器や医薬品の開発・改良、それに伴う設備投資等を行う企業が、指定金融機関から必要な資金を借り入れる場合に、総合特区支援利子補給金を支給する。

イ 評価対象年度における金融支援の活用状況と目標達成への寄与

平成 29 年度は、新たな製品開発のための研究開発拠点の建設等を目的として、本事業について 4 件の活用実績（これまでの累計で 22 件の利子補給実績）があった。今後、特区の数値目標の 1 つである「その他医療関連製品の開発」の達成や「医療機器生産金額」の増加にも繋がることが期待されている。

ウ 将来の自立に向けた考え方

静岡県は、医療健康産業分野における研究開発や事業推進を支援するための資金支援として、クラスター分野支援貸付（医療健康関連産業）を創設し、同分野で事業を展開する地域企業に対し、利息負担を軽減する貸付を行っている。平成 29 年度に、同貸付により融資実行された金額は、56 億円にのぼり、企業側の研究開発から事業化・製品化への円滑な資金繰りが促されている。

また、各市町の利子補給制度等の地域独自の金融上の支援も有効に活用されている。

企業の資金支援を担う地域の金融機関が積極的にファルマバレープロジェクトに参画し、産学官金が密接に連携した「ものづくりプラットフォーム」を構築しており、

地域が自立して、地域の医療健康産業クラスターの形成やイノベーション促進を下支えする仕組みが出来上がっている。

・静岡県クラスター分野支援貸付（医療健康産業）のH29年度利用状況

件数	融資実行額
89件	5,607,500千円

③-2 次世代診断技術開発推進事業（地域活性化総合特区支援利子補給金）

ア 事業の概要

革新的ながん診断装置・診断薬の開発に向けた研究開発を行う企業が、指定金融機関から必要な資金を借り入れる場合に、総合特区支援利子補給金を支給する。

イ 評価対象年度における金融支援の活用状況と目標達成への寄与

本事業について、平成29年度は企業からの申請がなかった。

今年度は、申請には至らなかったものの、個別の相談は寄せられていることから、引き続き企業の意向を踏まえ、活用について検討を行っていく。

ウ 将来の自立に向けた考え方

静岡県が創設したクラスター分野支援貸付（医療健康関連産業）や各市町の利子補給制度等の地域独自の金融上の支援は、広く医療健康産業分野における研究開発や事業推進を支援するための資金支援であり、前述の「医療機器等開発・参入支援事業（地域活性化総合特区支援利子補給金）」に該当する事業のみに限定されることなく、本分野で事業を展開する地域企業に対しても、利子負担を軽減する貸付を行っている。

6 地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙4）

（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

＜財政上の支援＞

静岡県が1年以内に対象製品の販売が見込まれる医療福祉機器の事業化に対して助成しているほか、（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターによる企業間連携を促進し、企業の研究開発成果の早期実用化を支援する医療機器等開発助成事業、（公財）静岡県産業振興財団による産学官連携研究開発助成や中小企業研究開発助成等、様々な支援策により特区の数値目標に寄与する取組を進めている。また、静岡県や各市町が医療関連企業の立地等に関する助成、地域企業が開発した新技術・新製品の販路開拓のための事業に助成するなど、数値目標の達成に寄与している。

＜金融上の支援＞

静岡県が創設したクラスター産業分野制度融資は、金融機関や（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターとの連携により、多くの活用実績につながっているほか、各市町の利子補給制度等の地域独自の金融上の支援も有効に活用されている。また、裾野市は特区の利子補給に対して上乗せ助成を創設し、特区の支援制度との連携を図っている。

<人材育成>

沼津工業高等専門学校が行う医療産業人材の養成（全国初の認定講習「F-met」、「医療福祉機器開発工学コース」の設置）により、地域企業による医療分野への参入や医療機器等の開発が促進されるなど、数値目標の達成に寄与している。

<体制強化>

静岡県は、新しい研究開発拠点の整備とオープンイノベーション機能の充実を図るほか、プロジェクトの中核支援機関となる（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターへの地域企業を伴走支援するコーディネーターの配置、中核支援機関の新法人化等により、プロジェクト推進体制の一層の強化を図っている。

<民間の取組>

- ・ アジア市場を見据えた整形インプラントの製品化を目指して、静岡県東部地域の企業が集団を結成し、素材加工技術や知的財産等に関する研究を行うなど、製品化に向けた取組を行っており、（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターが積極的に支援している。
- ・ 中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターは、静岡県・県東部12市町と連携し、地域企業や大学、研究機関等が有する研究内容や技術の紹介、製品・パネル等展示会、大学等からの講師を招いた講演会の開催等、産学官金連携を促進するためのフォーラムを開催している。平成29年度は97の地域企業や団体等が出展し、400名が来場するなど、地域企業にとってビジネスマッチングの場としても役立っている。
- ・ 地域の商工会議所及び商工会は、先進事例視察研修会や医療現場との意見交換会、ビジネスマッチング交流会の開催等、会員企業の参入・開発、販路開拓に向けた取組を積極的に支援している。
- ・ 沼津工業高等専門学校の人材育成事業（F-met）の修了生の企業が連携して「F-met+（プラス）」を設立し、新たな医療機器等の開発に取り組み、会員企業から製品が発売されるなど具体的な成果が現れている。
- ・ 地域の金融機関が顧客企業と（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターとのパイプ役となるなど、金融機関と産業支援機関が連携した取組を実施している。また、県が創設したクラスター分野支援貸付（医療健康関連産業）や市町が実施する利子補給制度の活用等、金融機関が産学官金連携における重要な役割を担っている。さらに、地域の金融機関の企画・主催によるセミナー開催やビジネスマッチング会が開催されるなど、医療関連分野での企業への支援が積極的に行われている。

7 総合評価

目標の達成に向けて、確実に進捗している。

上記のとおり、これまでのファルマバレープロジェクトの取組に加え、プロジェクトHOPEの実施や新しいオープンイノベーション拠点の整備と機能の充実により、基盤技術や体制の強化が図られている。

加えて、中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターの新法人化により、事業責任の明確化、事業効率・効果の向上を図り、既存事業の高度化によるプ

プロジェクトのステップアップを目指すとともに、新たな法人役員による知のネットワークを活用し、他地域のクラスター等との連携による全県的・広域的な展開を通じて、プロジェクトのさらなる拡大を図るなど、プロジェクトは新たなステージに向けて動き出しており、革新的ながん診断装置・診断薬の開発や医療関連産業クラスターの形成に向けて着実にプロジェクトを進めている。

また、F-met 等の認定講習により取得した資格要件を活用した新規参入（医療機器製造業登録）や、修了生の企業による新たな製品の開発等、特区から提案した規制の特例措置や、製品開発や産業集積に関する財政支援、利子補給等の金融支援の活用が図られており、連携して実施されている。

さらに、沼津高専による人材育成をはじめ、市町、商工団体、金融機関、関連団体等がファルマバレープロジェクトの一員として積極的に活動しており、産学官金が一体となった取組を推進している。

次年度以降も、目標達成に向けて、事業を継続して実施していく。

■ 目標に向けた取組の進捗に関する評価

		< 前計画 > 平成24～27年度	当初(平成28年度)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	
評価指標(1) がん診断装置・診断薬の開発	数値目標(1) 平成28年度から平成32年度までの累計4件	目標値 (累計)4	0	0	0	0	4	
		実績値 (累計)4	0	1				
	寄与度(※): 100%	進捗度(%) 100%	-	100%				
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合							
	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		<p>静岡がんセンターでは、平成26年1月から日本初の「近未来のプレジジョン・メディシンのシミュレーション」を目的とした先進的事業「プロジェクトHOPE(High-tech Omics-based Patient Evaluation)」を進めている。静岡がんセンターの全手術症例のうち、試料入手が可能な年間約1,000症例のゲノム解析(高度な遺伝子解析基盤技術)を実施し、平成30年2月28日現在、登録は4,663症例に達し、国内のがんゲノム研究としては類の無いビッグデータとなった。また、2,652症例の変異データ解析の結果、その64%の症例にがん化に関連する遺伝子に機能変化を及ぼす変異が認められ、17%の症例に分子標的薬が使用できる遺伝子変異を見出した。学会発表(国内65演題、海外6演題)、外国誌論文掲載(21報)、日本語誌論文掲載(2報)、新聞等掲載(27件)を行い、特許出願等の成果の事業化に向けた取組が進んでいる。</p> <p>今後、得られた成果をもとに、診断薬領域においては、共同研究先の企業と事業化へと展開することで合意している。創薬においても、製薬企業との連携を積極的に進め、革新的な創薬及び腫瘍マーカー開発のほか、プレジジョン・メディシンの実現に向けた次世代がん医療支援システムの創出等に取り組む。</p>					
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		<p>平成14年の開院以来、静岡がんセンターが開発を進めてきた4つの基盤技術(①腫瘍マーカー探索、②抗体開発、③イメージング、④診断支援)において、特区の支援等を活用して累計4件の実績をあげている。今後も、プロジェクトHOPEの成果や、これまでの基盤技術を活かした研究開発を推進し、平成32年度までに新たに4件の開発を目標として設定した。</p>						
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		<p>平成29年度は、医工連携事業化推進事業(旧課題解決型医療機器等開発支援事業)(財政支援)を活用して静岡がんセンターと地域企業が共同で研究開発を進めたマルチオミクス診断支援装置の新装置が完成し、発売されたことから、1件の製品化が実現した。</p> <p>また、成26年1月から静岡がんセンターが進めているプロジェクトHOPEは、4,600症例を超える登録数に達し、国内のがんゲノム研究としては類の無いビックデータとなった。変異データの解析結果から見出された成果に関する学会発表、外国誌論文掲載、新聞等掲載とともに、特許出願等の事業化に向けた取組が進んでおり、診断薬や創薬、腫瘍マーカー開発のほか、プレジジョン・メディシンの実現に向けた次世代がん医療支援システムの創出等が期待される。</p>						
外部要因等特記事項								

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

上記に係る現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] なし	[左記に対する取組状況等] なし
--------------	---------------------

■ 目標に向けた取組の進捗に関する評価

		< 前計画 > 平成24～27年度	当初(平成28年度)	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
評価指標(2) その他医療関連製 品の開発	数値目標(2) 平成28年度から平成32 年度までの累計50件	目標 値 (累計)10	10	10	10	10	10
		実績 値 (累計)26	8	12			
	寄与度(※):100%	進捗度 (%) 260%	80%	120%			
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標ま たは定性的な評価を用いる場合						
目標達成の考え方及び目標達成に 向けた主な取組、関連事業		<p>ファルマバレープロジェクトで構築した「ものづくりプラットフォーム」を活用し、静岡がんセンターをはじめとした臨床現場のニーズ収集から製品化まで、きめ細かい支援を実施する。地域企業等による製品開発を促進するため、医療機器・部材、ロボット等を担当する地域連携コーディネーターの活動や、大学や研究機関と連携した医療機器等開発実現化の検討、医療機器等開発可能性調査等の研究開発支援事業を実施する。</p> <p>また、新拠点静岡県医療健康産業研究開発センター(ファルマバレーセンター)に入居しているテルモ(株)MEセンター、サンスター(株)、オリンパステルモバイオマテリアル(株)、(株)リコー等の大手企業と、技術力を持つ地域企業との連携や、医療従事者等の異業種間の連携・交流を促進し、オープンイノベーション機能を発揮させることで、製品化・事業化を加速し、世界レベルの医療健康産業の拠点化を目指す。</p> <p>さらに、総合特区の支援制度(財政支援や利子補給)を活用して、地域企業の技術力を生かした医療機器の開発を支援する。また、沼津高専で実施している人材育成事業(F-met(富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム))を規制の特例措置の提案で実現した認定講習に位置づけ、開発技術者と資格者を養成するとともに、同校の専攻科(医療福祉機器開発工学コース)の設置により若手技術者等を養成するなど、産学官金が一体となった様々な角度からの支援策により、地域企業の医療健康分野への参入促進を図り、医療健康産業クラスターの形成を促進する。</p>					
各年度の目標設定の考え方や数値 の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に 代えて計画の進行管理の方法等		<p>平成14年からスタートしたファルマバレープロジェクトの取組により、これまでに約100件もの医療機器等の開発実績がある。今後、プロジェクトで構築したものづくりプラットフォームの充実や、新たに整備した静岡県医療健康産業研究開発センター(ファルマバレーセンター)におけるオープンイノベーション機能の発揮等により、医療関連製品の継続的な製品化を進め、各年度10件の製品化を目標とした。</p>					
進捗状況に係る自己評価(進捗が 遅れている場合は要因分析)及び 次年度以降の取組の方向性		<p>中核支援機関である(公財)静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターが入口から出口まで一貫して支援する製品開発のプラットフォームが効果的に機能し、静岡がんセンターをはじめとする医療機関と地域企業等による共同開発等により、数多くの製品化に結びついている。</p> <p>また、規制の特例により認定講習となった人材育成事業(F-met)の修了生の企業から続々と製品が生まれているほか、ファルマバレーセンターが支援して医療機器製販業許可を取得した企業が製品を上市するなど、具体的な成果が現れている。</p> <p>引き続き、特区の支援策の活用や、静岡県医療健康産業研究開発センター(ファルマバレーセンター)の有効活用とオープンイノベーション機能の充実、構築した「ものづくりプラットフォーム」などの相乗効果により、より多くの製品開発に結び付けていく。</p>					
外部要因等特記事項							

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

上記に係る現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] なし	[左記に対する取組状況等] なし
--------------	---------------------

■ 目標に向けた取組の進捗に関する評価

		<前計画>平成27年度	当初(平成28年度)	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年
評価指標(3) 医療機器生産金額 (県内) 数値目標(3) 3,739億円 →7,500億円 (薬事工業生産動態統計)	代替指標(3) 3,739億円→7,500億円 (薬事工業生産動態統計(月報)の1月～12月の各月の和)	目標値 4,000億円	4,500億円	5,250億円	6,000億円	6,750億円	7,500億円
		実績値 3,700億円 (当初指標(年報)による実績値)	3,466億円 代替指標(月報)による実績値	3,493億円 代替指標(月報)による実績値			
	寄与度(※):100%	進捗度(%) 93%	77%	67%			
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合		当該調査の公表(年報)が評価書作成以降であり、その一方で、厚生労働省から薬事工業生産動態統計(月報)は公式発表されているが、1月～12月の各月の和と、その後公表される年報の数値が異なるため、評価時点では正確な実績値が把握できない。 このため、代替指標として月報の1月～12月の各月の和による事後評価を行うこととする。この代替指標により、当地域における医療機器等の生産高を推し量ることができるうえ、年報との差異も小さいことから、代替指標として適切である。				
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		ファルマバレープロジェクトの中核支援機関である(公財)静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターを中心に、医療現場のニーズと地域企業の技術をつなぎつけるマッチングをはじめ、研究開発から人材育成、薬事申請、販路開拓までの一貫した支援を行い、地域企業のものづくり技術を活用した医療機器の製品化、部品・部材の供給を促進する。また、既存企業の規模拡大を支援するとともに、国内外から企業を誘致することにより、医療機器産業のより一層の集積を図る。 また、新拠点静岡県医療健康産業研究開発センター(ファルマバレーセンター)に入居しているテルモ(株)MEセンター、サンスター(株)、オリンパステルモバイオマテリアル(株)、(株)リコー等の大手企業と、技術力を持つ地域企業との連携や、医療従事者等の異業種間の連携・交流を促進し、オープンイノベーション機能を発揮させることで、製品化・事業化を加速し、世界レベルの医療健康産業の拠点化を目指す。 さらに、特区の支援制度に加え、県や市町による制度融資や新規産業立地事業費補助等の活用、沼津高専における技術者の養成(F-met(富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム)、医療福祉機器開発工学コースの設置)や、商工会議所、金融機関による医療分野への参入セミナー等の開催など、産学官金が連携して医療健康産業クラスターの形成に向けて一体となって取り組んでいる。					
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等 ※定性的評価の場合は、数値の根拠に代えて計画の進行管理の方法等		総合特区に対する各種支援策の活用やファルマバレープロジェクトの推進により、本県の医療機器生産金額は、平成21年から平成26年で倍増させることができた。引き続き産学官金が一体となって事業に取り組むことにより、平成25年(3,739億円)をベースとして平成32年(7,500億円)までに倍増することを目標として設定した。					
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		29年度の目標金額は、新拠点の開所などの推進体制の強化により、研究開発の加速化、新規参入の促進がなされ、それに伴い医療機器生産金額が増加することを見込んでいた。実績として、(公財)静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターの支援等により、県内で新規参入企業が順調に増加し、県東部地域を中心とした医療健康産業クラスターの拡大が進展するとともに、プロジェクト発の製品化件数も大幅に増加しているが、生産金額については、昨年度に比べて増加しているものの、目標金額には届かなかった。 目標とする生産金額の達成に向けては、これまでの取組に加えて、一般的なマーケットとは異なる医療機器産業の特殊性を踏まえた販路拡大の取組が重要であることから、学会や医学誌、病院での院内展示会を活用した製品PRを継続するとともに、新法人の新たな役員ネットワークを最大限に活用するなど、“売れる仕掛け”に取り組んでいく。					
外部要因等特記事項							

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

上記に係る現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] なし	[左記に対する取組状況等] なし
--------------	---------------------

■目標達成に向けた実施スケジュール
 特区名：ふじのくに先端医療総合特区

年 月	H28												H29												H30												H31												H32											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
全体																																																												
研究開発拠点機能強化																																																												
ファルマバレーセンターの開設・運営	☆ 新拠点施設 一部開所						☆ 新拠点施設 全面開所																																																					
中核支援機関の強化																									☆ 新法人の設立 ((公財)静岡県産業振興財団からの独立)						☆ 新法人による事業開始																													
オープンイノベーション機能の充実																																					(随時)												☆ 医学図書館 分館の開設											
事業1																																																												
がん診断装置・診断薬の開発																																																												
①プロジェクトHOPEの推進																																																												
マルチオミクス解析													☆ 3000例の解析						☆ 4000例の解析																																									
実用化・事業化に向けたシステム開発																																																												
販売開始																																																												
②基盤技術に基づく研究開発																																																												
研究開発																																																												
臨床試験																																																												
販売開始																																																												
事業2																																																												
医療関連製品の開発																																																												
開発支援																																																												

注1) 工程表の作成に当たっては、各事業主体間で十分な連携・調整を行った上で提出すること。
 注2) 特に翌年度の工程部分については詳細に記載すること。

■規制の特例措置等を活用した事業の実績及び評価
 規制の特例措置を活用した事業

特定(国際戦略/地域活性化)事業の名称(事業の詳細は本文4①を参照)	関連する数値目標	規制所管府省による評価
なし		規制所管府省名: _____ <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められる <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められない ⇒ <input type="checkbox"/> 要件の見直しの必要性あり <input type="checkbox"/> その他 <特記事項>

※関連する数値目標の欄には、別紙1の評価指標と数値目標の番号を記載してください。

国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業(本文4②に記載したものを除く。)

現時点で実現可能なことが明らかになった措置による事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)
なし			

国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業(本文4②に記載したものを除く。)

全国展開された事業の名称	関連する数値目標	評価対象年度における活用の有無	備考(活用状況等)
なし			

上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
なし	なし

■財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（国の支援措置に係るもの）

財政支援措置の状況										
事業名	関連する数値目標	年度	H28	H29	H30	H31	H32		累計	備考
一般地域活性化事業（医療機器等開発・参入支援事業（課題解決型医療機器等開発支援事業（医工連携事業化推進事業）））	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	財政支援要望	120,000 (千円)	120,000 (千円)					240,000 (千円)	補助制度等所管府省名：経済産業省 対応方針の整理番号：176 特区調整費の活用：無 これまでに6つのテーマについて約9.5億円の支援を受け、医療機器等の開発に取り組むことができた。地域企業が開発した人工関節インプラントが既に上市されているほか、平成29年度は、マルチオミクス検査の前処理装置の新型やニオイセンサーを活用した病臭測定装置が発売されるなど、2件が新たに製品化されており、革新的な医療機器等の開発に向けて、効果的に財政支援を活用している。 皮膚メラノーマ診断支援装置等についても、引き続き製品化に向けた研究開発を行っており、補助事業終了後も継続して開発に取り組んでいる。
		国予算(a) (実績)	0 (千円)	0 (千円)					0 (千円)	
		自治体予算(b) (実績)	0 (千円)	0 (千円)					0 (千円)	
		総事業費(a+b)	0 (千円)	0 (千円)					0 (千円)	
次世代診断技術開発推進事業（地域イノベーション戦略支援プログラム（国際競争力強化地域））	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	財政支援要望	200,000 (千円)	200,000 (千円)					400,000 (千円)	補助制度等所管府省名：文部科学省 対応方針の整理番号：180 特区調整費の活用：無 （公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターに配置した7人のコーディネーターが、構築した「知のネットワーク」を活用して大学、研究機関、企業等と連携を図り、医療・介護現場のニーズ・シーズを創薬研究や医療機器等の開発、試作、製品化に繋げている。 また、新拠点入居企業に対する個別支援を積極的に進め、大学医学部や医療機関との共同研究、入居企業間の共同開発など、着実な成果を上げている。 平成29年度は地域企業2社が薬機法の医療機器製造業登録を行ったほか、5社が新たに製造販売業許可を取得するなど、新規参入に向けた支援も成果を上げている。
		国予算(a) (実績)	63,760 (千円)	66,584 (千円)					130,344 (千円)	
		自治体予算(b) (実績)	0 (千円)	0 (千円)					0 (千円)	
		総事業費(a+b)	63,760 (千円)	66,584 (千円)					130,344 (千円)	

事業名	関連する数値目標	年度	H28	H29	H30	H31	H32		累計	備考	
医療機器等開発・参入支援事業（戦略的基盤技術高度化・連携支援事業）	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	財政支援要望	90,000 (千円)	90,000 (千円)					180,000 (千円)	補助制度等所管府省名：経済産業省 対応方針の整理番号：180 特区調整費の活用：無 地域企業が有する高度なものづくり基盤技術を活用した医療機器開発の取組について、（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターが事業管理者となり研究開発を推進している。平成29年度は、「微小血管吻合用ステントの開発」及び「骨端用プレートの高品質・低コスト成形加工技術の開発」の2テーマについて国の支援を受け、必要な設備導入等を行った。引き続き製品化に向けた取組を推進していく。	
		国予算(a) (実績)	61,780 (千円)	43,690 (千円)					105,470 (千円)		
		自治体予算(b) (実績)	0 (千円)	0 (千円)							0 (千円)
		総事業費(a+b)	61,780 (千円)	43,690 (千円)							105,470 (千円)
医療機器等開発・参入支援事業（地域中核企業創出・支援事業）	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	財政支援要望	0 (千円)	10,000 (千円)					10,000 (千円)	補助制度等所管府省名：経済産業省 対応方針の整理番号：190 特区調整費の活用：無 （公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターは、当センターの有するネットワーク等を活用し、地域企業の海外への販路開拓を支援している。今年度は、インフルエンザ等の迅速検査キットの国内主要メーカーの、主に欧州エリアへの製品展開のサポートを行った。医療分野における世界最大規模の国際展示会への出展を支援し、海外ディストリビューターの新規獲得に繋げるなど、大きな成果を上げている。今後も新たなエリアへの出展や、新製品の国際機関の認証取得を視野に事業を企画・推進していく。	
		国予算(a) (実績)	0 (千円)	12,600 (千円)					12,600 (千円)		
		自治体予算(b) (実績)	0 (千円)	0 (千円)							0 (千円)
		総事業費(a+b)	0 (千円)	12,600 (千円)							12,600 (千円)

税制支援措置の状況										
事業名	関連する数値目標	年度	H28	H29	H30	H31	H32		累計	備考
該当なし		件数								

金融支援措置の状況										
事業名	関連する数値目標	年度	H28	H29	H30	H31	H32		累計	備考
地域活性化総合特区 支援利子補給金	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	件数	0	4					4	医療機器等開発・参入支援事業：4件 これまでに累計で22件の利子補給実績がある。複数の個別案件について金融機関から利子補給制度の活用に関する照会・相談が寄せられており、産学官金が連携した医療健康分野への参入や事業規模拡大、経営基盤の強化に向けた取組が行われている。

上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項] なし	[左記に対する取組状況等] なし
--------------	---------------------

■地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
事業化推進助成事業	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	医療・福祉機器分野 採択4件	助成事業終了後、1年以内に対象製品の販売が見込めるものに対して助成しており、関連する数値目標に寄与するものである。	静岡県
先端企業育成プロジェクト推進事業	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	医療・福祉機器分野 採択4件	平成27年度から制度を創設、平成29年度は新たに医療・福祉機器分野を重点支援分野として、県内企業が産総研と共同して行う新技術・新製品の研究開発に対して助成しており、関連する数値目標に寄与するものである。	静岡県
医療機器等開発助成事業	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	医療・福祉機器分野 採択5件	平成29年度から制度を創設し、中小企業の医療健康分野における研究開発成果の早期実用化に向けた企業連携による取組に対して助成しており、関連する数値目標に寄与するものである。	静岡県産業振興財団ファルマバレーセンター
中小企業研究開発助成事業	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	医療・福祉機器分野 採択1件	中小企業が製品化を目指して行う新技術・新製品の研究開発に対して助成しており、関連する数値目標に寄与するものである。	静岡県産業振興財団
産学官連携研究開発助成事業	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	医療・福祉機器分野 採択3件	新技術の実用化、新製品開発に産学官が連携して行う研究開発に対して助成しており、関連する数値目標に寄与するものである。	静岡県産業振興財団
新規産業立地事業費補助金 地域産業立地事業費補助金	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	ファルマバレー関連企業 2件	医薬品・医療機器等の企業が県内に工場等を新設する場合に助成するもので、関連する数値目標に寄与するものである。	静岡県
御殿場市地域産業立地促進事業費補助金	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	ファルマバレー関連企業 1件	工場等の新設に係る用地取得、新規雇用に対する補助であり、ファルマバレー関連企業の集積に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	御殿場市
三島市ファルマバレープロジェクト関連事業所集積促進事業	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	ファルマバレー関連企業 2件	医療分野の企業の立地や生産開発に対する助成であり、ファルマバレー関連企業の集積や開発に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	三島市
沼津市企業立地促進事業費補助金	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	ファルマバレー関連企業 1件	新工場等の用地取得費に対する補助であり、ファルマバレー関連企業の集積に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	沼津市
医療関連産業集積促進事業費補助金	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	ファルマバレー関連企業 1件	新工場等の建設費、機械設備の取得に対する補助であり、ファルマバレー関連企業の集積に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	沼津市
沼津市ニュービジネス創出事業補助金	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	ファルマバレー関連企業 4件	新製品、新技術及び新サービスの開発等に対する補助であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	沼津市

沼津市中小企業設備投資促進事業費補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 1件	工場の新築・増築及び機械設備の取得に対する補助であり、ファルマバレー関連企業の集積に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	沼津市
富士市企業立地促進奨励金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 新規指定件数 1件	工場等を新設・増設・移設する企業に対する奨励金制度であり、ファルマバレー関連企業の集積に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	富士市
富士市産業財産権取得事業補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 1件	産業財産権を取得した場合に、その経費の一部を補助するものであり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	富士市
富士市はばたき支援事業補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 2件	自社製品の国内販路開拓を目的とする事業に対する助成であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	富士市
富士宮市中小企業新技術新製品出展事業費補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 2件	自社製品の販路開拓を目的とする事業に対する助成であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	富士宮市
富士宮市産業振興事業費補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 1件	事業拡大を目的とした設備投資や市民の新規雇用に対する助成であり、ファルマバレー関連企業の集積や開発に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	富士宮市
長泉町中小企業産学共同研究支援補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 1件	新技術導入等を目的とした大学等との共同研究に対する助成であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	長泉町
長泉町中小企業新製品等開発事業補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 2件	新製品・新技術の開発を目的とする事業に対する助成であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	長泉町
長泉町中小企業販路拡大事業補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 4件	新製品・新技術の販路開拓を目的とする事業に対する助成であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	長泉町
清水町企業立地促進補助金	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 1件	工場等の新設に係る用地取得、新規雇用に対する補助であり、ファルマバレー関連企業の集積に貢献した。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	清水町
税制支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
なし				

金融支援措置の状況				
事業名	関連する数値目標	実績	自己評価	自治体名
クラスター分野支援貸付 (医療健康関連産業)	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 89件	平成25年度から制度を創設、平成27年度に制度を拡充し、ファルマバレー関連企業を資金面から支援できた。これは、関連する数値目標に寄与するものである。	静岡県
裾野市特別政策資金利子補給事業	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 2件	医療関連の小規模事業者の事業資金に対する利子補給であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値に寄与するものである。	裾野市
沼津市中小企業利子補給制度	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 0件	医療関連の中小企業の事業資金に対する利子補給であるが、平成29年度はファルマバレー関連企業の実績はなかった。	沼津市
長泉町中小企業事業資金利子補給制度	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 1件	医療関連の中小企業の事業資金に対する利子補給であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値に寄与するものである。	長泉町
清水町小口資金融資利子補給制度	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 1件	医療関連の小規模事業者の事業資金に対する利子補給であり、ファルマバレー関連企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値に寄与するものである。	清水町
中小企業経営力強化資金等	数値目標 (1) 数値目標 (2) 数値目標 (3)	ファルマバレー関連企業 20件	ファルマバレープロジェクトに参画している中小企業に対する資金支援であり、企業の開発・事業化に貢献した。これは、関連する数値に寄与するものである。	日本政策金融公庫

規制緩和・強化等

規制緩和				
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）	自己評価	自治体名
なし				
規制強化				
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）	自己評価	自治体名
なし				
その他				
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）	自己評価	自治体名
責任者資格要件の緩和による認定講習の実施	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	沼津高専が行う人材育成事業（F-met）を全国で初めて医療機器責任者講習として認定し、地域へ迅速に資格者を輩出している。 F-met修了者数78人（うち認定講習該当者数32人）	地域企業が医療分野へ参入する上で負担となっていた責任者資格要件の緩和等を求め、全国展開で認められた。 F-met修了生の企業による新たな医療機器開発・製品化や、課題解決型医療機器等開発事業（医工連携事業化推進事業）への参画、薬機法上の医療機器製造業登録など、関連する数値目標に寄与するものである。 なお、同講習は、文部科学省による地域再生人材創出拠点の形成事業の評価において、最高評価である「S」評価を受けたほか、厚生労働省の「職業実践力育成プログラム」として全国の高専で唯一、認定を受けた。	静岡県
沼津高専専攻科「医療福祉機器開発工学コース」の開設	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	沼津高専が専攻科を改編し、平成26年4月から「医療福祉機器開発工学コース」を開設した。医療機器等を開発する優秀な若手人材を、継続的に地域に輩出することが見込まれる。 入学者数：平成26年度10人、平成27年度11人、平成28年度10人、平成29年度14人	総合特区やファルマバレープロジェクト等の取組と連携して行うことで、地域企業に優秀な人材を輩出できる仕組みができた。新たな医療機器等の開発や新規参入の加速など、関連する数値目標への寄与が期待される。	沼津工業高等専門学校
静岡がん会議2017「静岡がんセンター15年のあゆみとこれから」	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	県民に最善のがん医療を提供するべく、臨床研究成果等を情報発信するとともに、ファルマバレープロジェクトの推進にも寄与することを目的に開催。	今回の静岡がん会議は、最先端のがん医療やプロジェクトHOPEによるがんゲノム研究、患者家族支援体制などの静岡がんセンターが積み重ねてきた実績や現状、さらには地域の医療・健康産業活性化を目指すファルマバレーセンターの成果や今後について紹介し、新たな時代の「理想のがん医療」の実現に向けて情報共有した。	静岡県
富士山麓健康産業雇用創造プロジェクト	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	県東部地域の健康産業関連企業群に対し、人材育成、販路拡大および雇用創造などを総合的に支援する。	医薬品・医療機器合計生産金額日本一である本県の産業の強みを活かし、企業群と試験研究機関等の協働による製品開発・販路拡大及び人材育成等に取り組み、企業力の強化と雇用創造を目指している。	静岡県
静岡県創業者育成施設	数値目標（1） 数値目標（2） 数値目標（3）	静岡県工業技術支援センター隣接地にインキュベートルームを用意し、創業者支援を行っている。	沼津インキュベートセンターに医療機器開発を目指す企業が入居し、研究開発に取り組んでいる。	静岡県

体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	<p>○静岡がんセンターでは、平成26年1月から日本初の「近未来のプレジジョン・メディシンのシミュレーション」を目的とした先進的事業「プロジェクトHOPE」を進めている。平成30年2月28日現在、登録は4,663症例に達し、国内のがんゲノム研究としては類の無いビッグデータとなった。変異データの解析結果から見出された成果に関する学会発表、登録論文掲載、新聞等掲載とともに、特許出願等の事業化に向けた取組も進んでいる。今後、得られた成果をもとに、診断薬や創薬、腫瘍マーカー開発のほか、プレジジョン・メディシンの実現に向けた次世代がん医療支援システムの創出等が期待される。</p> <p>○静岡県は、世界レベルの医療健康産業の集積地域へと躍進するため、平成28年9月、事業連携の中核となる新しい戦略的拠点施設（静岡県医療健康産業研究開発センター）を静岡がんセンター隣接地に開設した。テルモ㈱MEセンター、オリンパステルモバイオマテリアル㈱、サンスタール㈱、㈱リコー等の大手企業のほか、東海部品工業㈱、深澤電気㈱等の技術力のある地域企業など計10社と薬事コンサルタントや知財コンサルタントが入居し、様々な企業等の連携や交流、支援により、国際競争力のある研究開発と製品化を促進し、世界レベルの医療健康産業の拠点化を目指していく。既に入居企業と医療機関との共同研究や入居企業同士による共同開発が進んでおり、オープンイノベーションの仕組みを活用した製品開発が具現化している。</p> <p>○平成25年度に採択された地域イノベーション戦略支援プログラム（国際競争力強化地域）により、中核支援機関であるファルマバレーセンターに地域連携コーディネーターを7名配置している。入居企業各社を担当コーディネーターが伴走支援するほか、施設のオープンイノベーション機能やものづくりプラットフォームを充実・強化させ、世界市場を見据えた医療関連製品の製品化・事業化に向けて取り組んでいる。</p> <p>○静岡県は、（公財）静岡県産業振興財団の1部門であるファルマバレーセンターを、産業振興財団から分離独立させ、専門性の高い事業を機動的に実施できる新法人「（一財）ふじのくに医療城下町推進機構」を平成29年8月に設立した。平成30年4月より新法人がプロジェクトの中核支援機関としての事業を開始する予定であり、新体制の下、事業責任の明確化、事業効率・効果の向上を図り、既存事業の高度化によるプロジェクトのステップアップを目指すとともに、新たな役員による知のネットワークを活用し、他地域のクラスター等との連携によるプロジェクトの一層全県的・広域的な展開を通じて、プロジェクトのさらなる拡大を図る。</p> <p>○静岡がんセンターは、平成21年から病院立として全国初となる認定看護師教育課程を開講しており、これまでに330名以上の高度な技術を有する看護師を養成してきた。平成29年1月からは、講義の場をファルマバレーセンターに移すとともに、施設内に医学図書館の分館を設置した。これにより、入居企業は看護師との交流・接点が増えるとともに、医療に関する専門的な情報にアクセスすることが可能となるなど、オープンイノベーション機能の充実に寄与している。</p>
------	---

民間の取組等	<p>○アジア市場を見据えた整形インプラントの製品化を目指して、静岡県東部地域の企業が集団を結成し、素材加工技術や知的財産等に関する研究を行うなど、製品化に向けた取組を行っており、ファルマバレーセンターが積極的に支援している。</p> <p>○中核支援機関である（公財）静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターは、静岡県・県東部12市町と連携し、地域企業や大学、研究機関等が有する研究内容や技術の紹介、製品・パネル等展示会、大学等からの講師を招いた講演会の開催など、産学官金連携を促進するためのフォーラムを開催している。平成29年度は97の地域企業や団体等が出展し、400名が来場するなど、地域企業にとってビジネスマッチングの場としても役立っている。</p> <p>○沼津商工会議所は「ふじのくに先端医療推進ぬまづ」の活動として、大手医療機器メーカーから講師を招いた研修会の開催や、商品開発・改良に向けた現場ニーズの提供、販路開拓（ビジネスマッチング）の支援等により、会員企業を支援している。</p> <p>○富士市と静岡県中小企業団体中央会東部事務所は、「富士山麓医療関連機器製造業者等交流会」として、ビジネスマッチング交流会や先進事例視察研修会の開催など、参入・開発に向けた取組を実施している。</p> <p>○三島商工会議所は「医看工連携ミシマ」の活動として、病院や介護施設を訪問し製品化に向けたニーズを探る情報交換会を開催するなど、会員企業を支援している。</p> <p>○沼津高専の人材育成事業（F-met）の修了生の企業が連携して「F-met+（プラス）」を設立して、新たな医療機器等の開発に取り組み、会員企業から製品が発売されるなど具体的な成果が現れている。</p> <p>○地域の金融機関が顧客企業とファルマバレーセンターとのパイプ役となるなど、金融機関と産業支援機関が連携した取組を実施している。また、県が創設したクラスター分野支援貸付（医療健康関連産業）や市町が実施する利子補給制度の活用など、産学官金連携における重要な役割を担っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡銀行は、経産省「医療機器・ものづくり商談会」に参画し、取引先企業のエントリーや商談を支援しているほか、REVICキャピタル運営のヘルスケアファンドへの出資、医療・介護セミナーの開催、連携大学とのマッチング等により、医療関連企業を支援している。 ・スルガ銀行は、マネジメントセミナー等を開催し、経営課題の対応策等をタイムリーに提供している。 ・三島信用金庫は、「ファルマバレープロジェクトセミナー in さんしん」として、医療分野等で使用されるチタンに関するセミナーを開催。 ・県東部4金庫（沼津信用金庫、三島信用金庫、富士信用金庫、富士宮信用金庫）が主催して「富士山麓ビジネス商談会」を開催し、医療関連企業のビジネスマッチングを支援している。
--------	---

上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項] なし	[左記に対する取組状況等] なし
--------------	---------------------

■(参考)認定計画書に記載した数値目標に対する実績

		<前計画> 平成27年度	当初(平成28年度)	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年
評価指標(3) 医療機器生産金額 (県内)	数値目標(3) 3,739億円(平成25年薬事 工業生産動態統計) →7,500億円(平成32年 薬事工業生産動態統計)	目標値 (※2) 4,000億円	4,500億円	5,250億円	6,000億円	6,750億円	7,500億円
		実績値 (当初指標(年報) による実績値)	未公表				
	寄与度(※1):100(%)	進捗度 (%)	93%	—			
目標達成の考え方及び目標達成 に向けた主な取組、関連事業		<p>ファルマバレープロジェクトの中核支援機関である(公財)静岡県産業振興財団ファルマバレーセンターを中心に、医療現場のニーズと地域企業の技術を結びつけるマッチングをはじめ、研究開発から人材育成、薬事申請、販路開拓までの一貫した支援を行い、地域企業のものづくり技術を活用した医療機器の製品化、部品・部材の供給を促進する。また、既存企業の規模拡大を支援するとともに、国内外から企業を誘致することにより、医療機器産業のより一層の集積を図る。</p> <p>また、新拠点静岡県医療健康産業研究開発センター(ファルマバレーセンター)に入居しているテルモ(株)MEセンター、サンスター(株)、オリンパステルモバイオマテリアル(株)、(株)リコー等の大手企業と、技術力を持つ地域企業との連携や、医療従事者等の異業種間の連携・交流を促進し、オープンイノベーション機能を発揮させることで、製品化・事業化を加速し、世界レベルの医療健康産業の拠点化を目指す。</p> <p>さらに、特区の支援制度に加え、県や市町による制度融資や新規産業立地事業費補助等の活用、沼津高専における技術者の養成(F-met(富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム)、医療福祉機器開発工学コースの設置)や、商工会議所、金融機関による医療分野への参入セミナー等の開催など、産学官金が連携して医療健康産業クラスターの形成に向けて一体となって取り組む。</p>					
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等(※2)		<p>本県の医療機器生産額は、平成21年から5年間で倍増(平成21年統計1,956億円⇒平成26年統計3,865億円)していることから、平成27年統計(3,700億円)をベースとして同じく5年間で概ね倍増させるべく、平成32年統計の目標を7,500億円に設定している。</p>					
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		<p>当該調査の公表(年報)は、翌々年の4月に公表されているが、平成28年の結果については、平成30年6月現在未公表。</p>					
外部要因等特記事項							
代替指標による評価又は定性的評価との比較分析							

※1 寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

※2 数値目標に係る目標値について、各年度の目標設定ができない場合は、目標達成予定年度のみ数値目標及び実績値の両方を記載し、目標達成予定年度以外の年度については、当該年度の実績値のみを記載してください。

また、その場合は「各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等」の欄に、当初設定した数値目標に係る目標設定の考え方や数値の根拠を記載してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項] なし	[左記に対する取組状況等] なし
--------------	---------------------